

見えているのに、読めない？書けない？の原因に迫る「視覚認知外来」

<報道概要>

徳島大学病院眼科では、令和3年9月より、視覚認知を専門に評価する「視覚認知外来」を開設しています。視覚認知に問題がある場合、視力や視野といった一般的な眼科検査では異常が認められないにもかかわらず、

- ・文字の読み書きがうまくできない
- ・似た文字を読み間違える
- ・行を目で追えない
- ・強いまぶしさを感じる

など、日常生活や学習、仕事に支障をきたす困りごとが生じることがあります。こうした問題には、「脳における視覚情報処理過程での問題」が関与していると考えられていますが、医学的に未解明な部分も多く、これまで医療の中で十分に対応できる受け皿がないという課題がありました。

視覚認知外来では、従来の視力や視野といった指標では評価できない「見えにくさ」に対して視覚認知の観点から原因を丁寧に評価し、一人ひとりに合った対応策を検討することを目的としています。

また、医療だけでなく、教育機関、療育施設、職場などと連携し、患者さんやご家族に寄り添った支援体制を構築することを目指しています。

— 視力検査ではわからない“見えにくさ”に向き合う専門外来 —

具体的には、視力検査や眼底検査などによる眼の病気の評価に加え、

- ・ 眼球運動や両眼視機能の検査
- ・ 視知覚発達検査
- ・ 読み上げや書き写しの検査

など、複数の検査を組み合わせて行い、どの段階で困難が生じているのかを総合的に評価します。

そして、検査結果をレポートとしてまとめ、患者さんのご希望に応じて小児科や、学校・療育機関・職場などに情報提供を行い、適切な支援につながるようサポートをしています。

開設から現在までに、約80名の患者さんが受診しており、視覚認知に関連した見え方の問題を抱えている方が多く存在することが明らかになってきました。

開設から5年目に入った現在、学会発表や論文を通じて、「視力検査だけではわからない見えにくさ」への理解と啓発にも積極的に取り組み始めています。

お問い合わせ先

徳島大学病院眼科

担当者 病棟医長 村尾 史子

電話番号 088-633-7163(眼科医局)

メールアドレス murao.fumiko.2[アット]tokushima-u.ac.jp

※メールを送信される場合には、[アット]を@に置き換えてください

CLOSE UP!



■説明は

徳島大学病院眼科

病棟医長

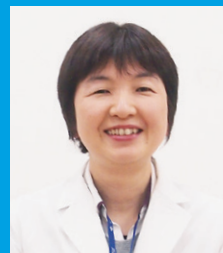
村尾 史子

(むらお ふみこ)

お問い合わせ先

眼科外来

TEL: 088-633-7161



患者さんへひとこと

眼科の検査で視力や視野に問題がなくても、見えにくい、あるいは周りの人から見えていないのでは?と言われる場合、視覚認知に問題があるかもしれません。特別な検査をしないと分からないため、気になる方はかかりつけ医から視覚認知外来について紹介してもらってください。

視覚認知外来について

～視力に問題はないと言われているのに…とお困りの方はいませんか?～

今回は視覚認知の問題と、本院で実施している「視覚認知外来」について眼科の村尾医師にお話を伺いました。

● 視覚認知とは

人の「見えにくい」という訴えの原因には図のように複数の原因が考えられます。しかし、一般的な眼科では①と②の問題は検査をしますが、③の視覚認知の問題についてはほとんど検査が行われていません。

視覚認知の問題は、学習障害(LD)を含む発達障害や、外傷・脳卒中などによる高次脳機能障害のある方にみられることがあり、お子さんの場合は、小学生になって、学習の躓きから気にされる場合があります。読み書きや、探し物が苦手など、周りの人から見ると「見えていないのでは?」と感じられることも多いのですが、本人の視力や視野に問題がないために眼科では異常なしと診断され、見えにくさの原因・対処がわからないことで、本人やご家族、周囲の人の多くが困惑している現状があります。また、そのような現状から、見え方についての医師による適切な診断が行われないうまま、有効性のはっきりしないトレーニングが行われつつあることも問題となっています。

このようなことでお困りの方はいませんか?

音読が苦手、誤読が多い、
行を読み飛ばす、字を書くのが苦手、
黒板の文字が写せない、目盛りが読めない、
探し物・球技が苦手 etc…

～見えにくさの原因～

- ① 視路(眼球)の問題
(例: 白内障、緑内障など)
- ② 視機能の問題
(例: 近視、乱視、斜視など)
- ③ 視覚認知(見たものを正しく認知する能力)の問題。

● 本院の取り組み

本院の眼科では約1年前から視覚認知外来を設け、治療が必要な病気がないにもかかわらず見えにくさを感じている方や、発達障害などがあり、動くものを目で追ったり、細かな物を見たりするのが苦手な方を対象に視覚認知の検査を行っています。治療が必要かどうか、目の病気の有無を診断した後に、視覚認知の検査を行い、有効と考えられる練習を紹介したり、ご希望に応じて学校や療育施設に見え方の情報をお伝えしたり、患者さん一人一人に合わせて対応しています。本人やご家族、周りの人達が見え方の特性について理解することで、日常生活を送りやすくなることに主眼をおき、その環境整備を働きかけます。



視覚認知について様々な検査を行います



● 今後の目標

視覚認知の問題は医師の間でもあまり理解が深まっておらず、日常生活や学校生活において見え方に問題があっても、ご本人の問題(集中力が足りない、怠けているなど)とされて適切な対応ができていない場合が多くあります。視覚認知外来は、全国的にも珍しい外来で、試行錯誤のところもありますが、関連機関(医療機関、学校、療育施設)などと連携を深めるとともに、さらに視覚認知の問題について理解を深めたいと考えています。



視覚認知外来のスタッフ(医師と視能訓練士)

視覚認知外来の流れ

(第1・3金曜日 初診10時、再来14時)

1日目	問診、一般的な眼科の検査(眼球に異常が無いかどうか確認します)
2日目以降	眼球運動や視覚認知に特化した検査(患者さんのペースに合わせて進めます)
最終日	- 検査結果説明(患者さんの視覚特性を診断します) - 生活上のアドバイスや関連機関(視覚支援学校等)の紹介 - ご希望に応じて関連機関(医療機関、学校、療育施設)に情報提供